

第4回自治推進委員会の審議事項の要旨

【平成21年6月2日開催】

1 第3回委員会の審議事項等の確認

- ・第3回委員会の審議事項等について確認した。

2 参加の仕組みに係る課題について

＜事例の分析＞

- ・「都市マスタープラン（全体構想・区別構想・小杉駅周辺まちづくり推進地域構想）」「緑の基本計画」「鷺沼プール跡地広場整備事業」の事例について、関係職員から参加の取組状況の説明・報告を受け、それをもとに意見交換を行った。

意見交換の内容

- 委員会によってはいろいろな専門家の方が入っていないかもしれないものもあるが、委員会の構成は、市民と学識者のバランスに留意すべきだ。
- 「緑の基本計画」では、審議会傍聴者の意見をアンケートで聴取するなど、多くの市民意見を取り込む工夫をするとともに、策定後の進行管理のプロセスを明確に示したことは評価できる。実行段階にもどんどん市民の声を取り入れてほしい。
- 行政の計画などの大枠は参加の初期段階から明確に示す必要があるが、その詳細はある程度状況に応じた柔軟性が必要だ。
- 「つくる参加」「決める参加」だけでなく「修正する参加」「つかう参加」など様々な参加の機会が考えられ、公園などの即地的なテーマの場合は、直接的な関係者、少し距離のある関係者など適切な参加を組み合わせる必要がある。
- 新しく移り住んできた住民もどんどん参加できる環境づくりが大切である。
- 都市マスタープランの高津区の構想では、若手職員と市民が同じテーブルで議論をする場が設定されてよかった。また、多摩区の区別構想では、公募委員に建築士の方々が入っていて、まちづくりのプロとしての視点で、自治会や商店街の方々と議論をしながら進めた。
- 都市マスタープランについて、7区の区民提案が出揃うのにタイムラグがあり、それから整合性を図るのに難しい面があったが、いろいろな市民の意見が入っていることに意義がある。
- カッパークの整備では、検討委員会のメンバー構成が良かった。若い世代、特に母親の参加が欠けていたが、その部分はヒアリング調査などで補った。また、整備後に地域の子どもたちが花壇などの管理運営に参加するようになったことは評価できる。
- これからの行政担当者に求められるのは、参加によって出てくる様々な意見を要約、整理、集約し、全体を方向づけるファシリテーター（会議を効率よく進める進行役）の資質だ。
- 市民の中にもファシリテーター的役割を果たす市民が出てくるとよい。
- 参加のプロセスを通して、市民により広い視点や、地域に主体的に関わっていく意識などが生まれ、市民が大きく成長することがある。
- よい参加は施策のクオリティや市民の計画への理解度をあげるだけでなく、市民の成長や次の参加を呼び込むエネルギーを産む。ここにこそ参加の意義がある。

3 その他 次回の審議事項及び今後のスケジュールの確認

4 審議スケジュール

平成21年7月21日

資料 1-1

H20年度

H20

11月26日

第1回 自治推進委員会開催

【主な内容】○委嘱状交付、委員長・副委員長の互選、第1期の活動確認
○委員会の目的、審議事項、審議の進め方等の確認など



H21

1月20日

第2回 自治推進委員会開催

【主な内容】○参加、協働の仕組みと全体像の把握と課題の検討など
○パブリックコメント手続、審議会等の市民委員の参加、
住民投票制度、協働型事業のルール、区民会議



3月16日

第3回 自治推進委員会開催

【主な内容】○参加の仕組みに係る課題の検討など（事例分析：新総合計画、多摩川プラン、地域福祉計画）



H21年度

6月2日

第4回 自治推進委員会開催

【主な内容】○参加の仕組みに係る課題の検討など（事例分析：都市計画マスタープラン、緑の基本計画、鷺沼プール跡地（カッパーク鷺沼）整備）



7月21日

第5回 自治推進委員会開催

【主な内容】○協働の仕組みに係る課題の検討など（事例分析：事業者との協働事例ほか）

11月11日

講演会開催

自治基本条例を周知するための
講演会の開催



11月16日

第6回 自治推進委員会開催

【主な内容】○第2期区民会議の取組状況について
○推進プランの進捗状況の確認
○報告書の骨子案の取りまとめなど



12月

小委員会の開催
報告書の作成について検討

H22

2月下旬

第7回 自治推進委員会開催

【主な内容】○報告書の取りまとめなど



3月中旬

報告書を市長へ提出